

くらしき作陽大学創立50周年記念公演
日本伝統芸能

狂言

撮影・前島吉裕

狂言首引

親鬼

娘西八

春属

春属

春属

後見 石田幸雄

解説 野村萬香
狂言二人袴

親

男

太郎冠者

賀

後見 岡 聡史

野村萬香

飯田 豪

高野和憲

月崎晴夫

中村修一

岡 聡史

2016 (平成28年)

10/17 (月)

14:00開場 15:00開演

藤花楽堂(くらしき作陽大学内)

■ 入場料:5,000円

主 催:くらしき作陽大学

後 援:岡山県、岡山県教育委員会、倉敷市、倉敷市教育委員会、緑社市、緑社市教育委員会、財団法人倉敷市文化振興財団
読売新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、朝日新聞岡山総局、山陽新聞社、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち
FNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送、FMくらしき、くらしき作陽大学同窓会観声会

チケット取扱:くらしき作陽大学事務局、ぎんざや、インディック

お問合せ先:くらしき作陽大学 演奏芸術センター 086-523-0822



二人袴 (ふたりばかき)

今日は智入り(結婚後、妻の実家に初めて挨拶に行く事)の日。舅の家では準備を整え、智が来るのを心待ちにしている。一方の智は、一人で行くのは心細いからと父親、舅の家の門前まで付き添われてやってくる。智に礼装の長袴をはかせてやり、父は表で待っていたのだが、太郎冠者に見つけられてしまい、父親も舅に挨拶することになってしまふ。しかし、長袴は一つだけ。さて、この親子はどうやってこの場を切り抜けるのか…。

明るいめでたさのある智狂言の代表曲です。

狂言 ― 親と子は、いつの世も

首引 (くびひき)

播磨の印南野を通りかかった鎮西八郎が朝の前に鬼が現れる。娘の姫鬼に人の食い初めをさせたいという鬼に、為朝は、姫と勝負して負けたら食われよう、と提案する。親鬼は恥ずかしがる姫を説得して腕押し・すね押しをさせるが、豪傑無双の為朝にはかなわない。苦戦する我が子に気がでない親鬼は、ある策を思いつき…。

豪胆な英雄・為朝に対し、可憐な姫鬼を華麗かつ懸命に応援する親鬼。人間以上に子煩悩な鬼の姿に、思わず顔がほころびます。鬼対人の戦い。さて、この勝負の行方は？

出演者



野村 万作 のむら まんさく

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。祖父故初世野村萬斎及び父故6世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である『釣狐』の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章等多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に『月に憑かれたピエロ』『子午線の罫』『秋江』『法螺傳』等がある。著書に『太郎冠者を生きた』(白水社αブックス)、『狂言三人三様・野村万作の巻』(岩波書店)がある。

2015年文化功労者顕彰を受ける。



野村 萬斎 のむら まんさい

1966年生。野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出、NHK「にはんこであそぼ」に出演するなど幅広く活躍。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞。著書に『萬斎でござる』『MANSAI 〇解体新書』(朝日新聞出版)、『狂言サイボーグ』(日本経済新聞社)、『狂言三人三様・野村萬斎の巻』(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。

石田 幸雄 いしだ ゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。国内外での狂言・能公演に多数参加し、普及に貢献している。新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多く、普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。学習院大学非常勤講師。

高野 和憲 たかの かすのり

1972年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。能楽協会会員。万作一門の若手研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須と市語』『三番叟』『釣狐』等も抜き、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演。朝日カルチャーセンター・新国立劇場演劇研修所講師のほか、東京大学、お茶の水女子大学、成城大学の狂言サークルを指導している。

月崎 晴夫 つきざき はろお

1964年生。野村万作に師事。能楽協会会員。万作一門の若手研鑽会「狂言ざん座」同人。『奈須と市語』『三番叟』を抜くなど狂言の舞台に出演する一方、舞台「子午線の罫」「国盗人」にも出演。「万作の会」の演者の一人として活躍している。

岡 聡史 おか さとし

1980年生。野村万作に師事。文化学院卒業。能楽協会会員。立案や後援を勤め修業を続け、2012年「面箱」を抜く。

中村 修一 なかむら しゅういち

1989年生。野村万作に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。9歳で入門後、幼少より舞台に立ち、2016年「三番叟」を抜く。

飯田 豪 いいた こう

1989年生。野村万作に師事。日本大学芸術学部卒業。